

'71

会報



THE ROTARY CLUB
OF TSURUOKA

鶴岡ロータリー

第 605 号

1971.6.1 (火)

例会場 鶴岡市本町二丁目 ひさごや
事務所 鶴岡市馬場町 商工会議所内 ☎ 5775

四つのテスト

—言行はこれに照してから—

1. 真実か、どうか
is it the truth?
2. みんなに公平か
is it fair to all concerned?
3. 好意と友情を深めるか
will it build goodwill and
better friendships?
4. みんなのためになるかどうか
will it be beneficial to all
concerned?

「隔りを取り除こう。」

羽根田正吉君、一鶴岡西RC

出席報告

本日の出席	会 員 数	62名
	出 席 数	52名
	出 席 率	83.87%

欠 席 者 荒明君、長谷川(文)君、小花君
早坂(徳)君、金野君、嶺岸君
三浦君、岩網君、新穂君、富
樫君

前日の出席	前日出席率	75.81%
	修正出席率	56名
	確定出席率	90.32%

マークアップ 安藤君—仙台RC
石黒君—山形RC
長谷川(悦)君—天童RC
長谷川(文)君、黒谷君、三井
(徹)君、斎藤(信)君、佐藤
(忠)君—鶴岡西RC
小花君—オーストラリア

会員誕生

阿宗文雄君、阿部襄君、張紹淵君、石黒慶
之助君、五十嵐一郎君、上林一郎君、小野
寺清君

奥様誕生

安藤美智子様、長谷川敏子様、今間よしへ様

皆出席

12年間皆出席	小 花 盛 雄 君
9年間皆出席	阿 部 公 一 君
8年間皆出席	早 坂 源 四 郎 君
5年間皆出席	今 間 壯 太 郎 君
2年間皆出席	手 塚 林 治 君

5月100%出席 41名

阿宗君、阿部(公)君、阿部(襄)君、安藤君
張君、長谷川(悦)君、早坂(源)君、石井君
石黒君、五十嵐(三)君、五十嵐(伊)君、五
十嵐(八)君、海東君、田中君、金井君、上
林君、黒谷君、小花君、小池君、今間君、

会報はご家族みんなで読ましましょう

ビジター

五十嵐正雄君、菅原年雄君、五十嵐卓三君

嶺岸君、三井(徹)君、三井(賢)君、三井(健)君、男網君、中山君、小野寺君、大川君、廖君、斎藤(栄)君、佐藤(昇)君、佐藤(忠)君、鈴木(善)君、新穂君、鈴木(弥)君、高橋君、手塚君、富樫君、上野君、鷺田君、藪田君

会長報告

張先生を経て、ストウエルロータリークラブから挨拶状が届いております。英文ですが大体のところを訳しますと、次のようになります。

「貴クラブ発信のメッセージをたしかにいただきました。張先生、嶺岸さんが、我々のクラブを訪問されて、数日間でしたが、我々と共に楽しんで帰られました。

次の日には、所有されている家畜、即ち羊牛をみられ、それから数里離れたところのグランピアン・マウンテンに行き、そこでは放し飼いをしていた自然の動物をみられたことでしょう。その後リンセイ・ブラウン氏の家でパービキュー・パーティを行い、それに出席されました。

その次の日は、ストウエルから10哩離れたところに行かれ、その後市のレセプションに出席され、ストウエルクラブの御夫人も一緒に出席されて、非常に和かに交歓しました。

我々は非常に驚異的な素張しい時間を待つことが出来たのです。

また宗教、国籍の如何を問わずにロータリーは、皆が兄弟のように感じられました。

最後に下山田さん(交換学生)にもよろしくとのことでした。

(この書翻はJohn M kriewaldt氏から小池会長に宛てたものです)

次に今旅行中の小花先生から、非常に詳細なお便りが届いておりますので読み上げます。

前 略

9日夜鶴岡を出発、10日12時半羽田発にて濠洲に向いました。

途中インドネシア経由で13日濠洲に入り、その足で真直ぐキャンペラに参りました。人

口約15万の首都としての機能をもつのみ的小じんまりした綺麗な街でした。恰度ブラジルの新首都ブラジリアにも似た、小ワシントンと云った感じの処でした。

この戦勝記念博物館の庭には、日本の松尾大尉(当時26才)がシンドニー湾深く潜入した時の、特殊潜航艇が陳列され、懇切な解説がつけられ、日本特攻隊勇士を通じて日本魂をたたえた後日譚をもここで聞きました。

14日メルボルの視察もそこそこにして、第1の目的である鶴岡RCと組合せクラブのストウエルに向いました。恰度ストウエルRCの元会員で、現在メルボルンで医院を開業しているクリクハント博士自ら運転の御案内夫人同伴でメルボルンから西北方70哩はなれたパララードまで送って頂きました。このパララードはメルボルンオリンピック大会のときボートレースの会場になった処で、大きな湖と之に面した広々とした公園は恰度秋口に入り黄葉で美しく彩られていました。ここでストウエル会員のコリン・ホール夫妻と可愛い息さんの出迎えを受け、彼のたくみな運転で更に西北方80哩のストウエルに向いました。見渡す限り一面の平原又は丘陵で、殆んど牧野化しております。

濠洲は人口は1,200万、土地の広さは日本の20数倍、恰度東京都の人々がアメリカ全土にちらばっている位のところですから、その広いことと、過疎的な事も恐らく原因していると思われるノンビリさは羨しい位です。

羊は人の10倍位飼っているとのこと。いいのですが、ストウエルに着いてから街中を案内して呉れたコリンホール夫人は、自家用車のドアは旋錠せず鍵は案内に置いたまま私の大きなトランクは、先に会長宅に運んでくれましたが、之も家の入口のドア外に置いたまま、と云った誠に応揚な人柄に、これまた一寸うらやましくなりました。

前後しましたが、コリンホールさんがこの日午後4時から私達を歓迎する市長招待のレセプションに問い合わせるため、猛スピード(時速80哩=130km)で飛ばせましたら、ポリスの巡視車に追っかけられ停止を命ぜられました。コリンさんが、何やら説明していたらポリスが、外国人である私の顔をみて何のおとがめもなく放免して呉れたあたりも、何とも云えぬ味はいいのある国民だと思えました。

午後3時半頃ストウウエルに着くや、RC会長ジョン・クリーワード氏の店を訪問しました。彼は薬剤士で、40才前後と思われる好紳士で、繁華街でドラッグストアの立派な店を開いて居りました。

到着の挨拶をすませ、街の中を暫時視察4時から市役所の大ホールで開かれた歓迎会に出席。街の有力者総出の歓迎で仲々賑やかなパーティでした。

ここで張先生夫妻、嶺岸さん、同御令妹の万千子さん、張さんのゲストとも一緒になりほんとうに有意義な日本デーでした。

その後6時半よりストウウエルRCの例会に出席しました。

この例会は、私達鶴岡RC一行を歓迎する為に夫人同伴の特別例会で、余り広くない会場に、身動き出来ぬ位一杯で、これまた更に一層友情に満ちたなごやかに楽しかった。

ここで私は、今回の旅行の目的である日濠親善について、更にインドネシア・インド等々を訪問する理由として、低開発国の人々と先進国との間の隔たり、特に人種間の疎隔をなくするため少しでも役に立つ道を求めて歩いていることと、昨年私達ロータリーの第353地区全員の善意の結晶としてインドの結核撲滅の一助として、私の責任において贈呈を無事完了した。マドラスのヘルスポラントリー・サービスのメデカルセンターを訪問して贈呈した。33品目1331点の医療器械が如何にマドラス地域の印度住民の福祉に役立っているかをもこの眼でたしかめ、互にアジアでは中国と共に何と云っても指導的役割を果さねばならぬ古い歴史と伝統をもつインドの人々とも、しっかりと手を結んでいきたい旨などを約30分間程英語でスピーチいたしました。

張先生は持参のスライドを映写しながら相当長い紹介をされましたし、ストウウエル会員家族の方々には充分満足して頂けたと思います。特に嶺岸さんの妹万千子さんは嶺岸さんの通訳をしながら、素張しい英語を駆使しての社交ぶりは、全く讃嘆に値するものでした。

又24日からストウウエルに第353地区の勿来RCより派遣されてきている下山田礼子君も同席していて、元気一杯に活躍して、更に錦上添花を沿へてくれました。先方の夫人達は又かわるがわる立ってきれいな合唱をやって

私達の旅情を慰めてくれ、時の経つのも忘れ10時過に漸く閉会しました。

私は会長のゲストとして、ジョン・クリーワード氏宅に宿泊、張先生の一行は、先年来鶴岡されたリンゼイ・ブラウン氏宅に泊りました。

翌朝は早くから街の内外の公園や学校、とくに昔この街でゴールドラッシュの時に堀さくした古跡等をドライブしながら案内してくれました。そして間もなく元RC会長ケイトマクラカン氏夫妻のドライブでメルボルン迄送って頂き、之で念願久しかった組合セクラブ・ストウウエル訪問を終った訳ですが、多くの人々の友情と歓迎に全く深い感銘を受け、はるばると訪ねた旅に値する本当に意義深い2日間だったと思います。

なお今まで、いつも旅行を一緒にしており今回も同行している東京池袋RC元会長寺田義則氏が今回はシドニー北方16kmはなれたエビングRCと姉妹クラブ締結の任務をもって来ており、寺田氏を迎えるエビングの特別例会に私も招待されました。ここは美しい自然林に囲れた落ちついた街でしたが、ここも夫人同伴の全会員で歓迎して呉れました。私は副会長のブース氏の車で案内されました。

この人は歯科医ですが、先ず自宅に招じ入れられ、夫人と4人のお子さん達総出の歓迎を受けました。そしてこの例会には、国際理解特別プログラムとして当地のマックオール大学のドクター・コースで教育学を研究中のインドネシアの留学生トリスタ君のスピーチがありました。彼の母国インドネシアの復興のため、現在および将来の教育を如何にしなければならぬかについて、心を砕きながら烈々火を吐く演説には深く心を打たれました。

この町も東京池袋RC派遣の交換学生小島裕子嬢が今年の4月から来ており、その両親も私達と一緒に例会に出て、令嬢と久しぶりの再会で楽しんでおりました。

今日、シドニーのロータリー世界大会には世界各国から1万6千名が参加しましたが、この中日本からは1千6百名の多数が出席しました。参加した日本RC会員と話し会って見ますと、日本から濠洲の各地に沢山の高校生男女が、ロータリークラブの交換学生として来ており、どこでも非常に歓迎され之を通じて日濠両国の理解は、急速に深まって行くものと思われます。

濠洲の人々は、とても日本に対して友好的であり、かつ日本を積極的に深く研究している様で、太平洋をこそ隔てておりますが、現在の飛行機では、実動14時間位で行ける隣国となりました。私も今回の旅行で濠洲に多くの友人を得ることが出来ました、このきずなを大切に更なる一層深いつながりになる様に努力して参り度いと思ひます。

ストウエルRCの会員から呉々も皆様によるしくとの事でしたが、特にリンセイ・ブウン氏は、来年は又鶴岡を是非訪問したい意向を述べておりました。

ではひとまずストウエル訪問の報告を終らせていただきます。 匆々

昭和46年5月18日

鶴岡ロータリークラブ会長
小池繁治様

小花盛雄

三井賢二君

6月3日午後4時から、次年度役員と今年度役員の間合会を催します。詳しいことは事務局から、往復葉書で照会いたします。

濠洲旅行記 三井徹君

シドニーの世界大会に行って、私が見て参りましたことを申し上げます。

ここに携えてまいりましたのがコアラベアというオーストラリア特有の動物の模形であります。それとブーメランですが、これが向うの象徴的なものようです。これが個人的に向うで呉たバーナーですが、ここにもブーメランがかいてあります。手にとって御らんになって下さい。これは土着の土人が狩に使ったものだとのこと。

これを投げて動物の首とか足にあてて動物を獲ったとのこと。このような形で投げますと、物に当らなければ必ず手許に帰ってきます。

これを実際にやってみると不思議にもそのようになります。土人は、いろんな投げ方で動物にあてたらしいようです。

これが公式のプログラムであります。外に会場で日々の新聞を出しておりますが、これ

には日本語版が出ております。如何に日本人が多いかを証するものです。参加のバッチ(ネームカード)は、このように割合お粗末なものでした。

ホストクラブの会員などは、ちょりとリボンをつけておりますけれども、役員などの大きなリボンは余り付けないうでした。

大体オーストリアに関しては、張先生、小花先生からお話やお便りがあり、殆んど御存じのことと思ひますが、私が見て感じましたことを一寸申し上げます。

私は16日に立って、17日の朝に向うに着きました。ヒリッピン航空のマニラ経由で参りました。マニラに渡り(東京からマニラまで大体4時間)マニラからシドニーに直行が大体8時間近くかかります。恰度セレベスの上空を飛び斜に横断したようなコースで行きました。私が戦時中におりましたニューギニアの方でも通るかと思ひておりましたが、そちらは通りませんでした。それでニューギニアに対する私の感激というものは感じることは出来ませんでした。

船で参りますと赤道祭などをやったのですが、ただいま赤道などということもスチワードスは言わないで通過しました。飛行機の旅行というものは至って殺風景のようです。

シドニーに参って、世界大会の状況をみますと、日本人が大変多くて、日本人が世界に対し如何に進出しているかということ深く感じました。ヒリッピン航空などにも日本のスチワードスがおり、ちっとも不自由がありませんでした。

それから大会の方は19日に、大会の中で一番実のあるとでも申しましようか世界の一流の法律家の権威の集りがあり、パネルディスカッションをやったのを、前から2~3番目の席で運よく聴いて参りました。これについて一寸申し上げますと、法律を通じて隔りを取除こうというテーマでありました。全米の弁護士会の会頭であるチールス・エスラインという人の巧な司会により運営されて、パネラーとしては、ノールエーの最高裁の長官それにサンホセというところの法律の最高権威外務大臣と云った方、それに印度の最高裁長官(前に大統領を一寸やられたという方)等大勢の一流の権威のある方々のお話でした。最初のノールエーの方のお話は、公害についてのお話でした。先程津田先生にもお伺

いたのですが、恵まれた自然の環境の中で我々が生活するというのが基本的人権としてあるが、これは法律では規正されたものではなく、法律以前の問題だと云うお話のようでした。

最近公害が物すごい勢で拡がって参り、これについてのお話でしたが、海の汚染状態とか、英国のパーミンガムのスモッグがスカンジナビヤ半島に影響してくるとか、ザール地方のスモッグも、海を越えてスカンピナヤ半島へ押し寄せるといような話をしており、もう公害というものは、全世界的な全人類的な問題であると。これを如何にして今後法律的な規正を加えて、最小限度にとどめて行くことに努力しなければならぬというようなことを、きわめてわかり易しく話しておられました。このお話は、例の富士海外の玉村さんという方のたくみな同時通訳で、イヤホンできくことが出来ました。

それから次のサンホセの方のお話は、青少年との隔りを取り除こうということで、とにかく現在大人が口に平和を称えているけれども、実際には戦争していること。即ち事実から言っても戦争面が大人に対する不信感として仲々取り除けない。これを如何にして、この隔りを取り除いて行くかというようなことでした。絶対に暴力を否定して、法律を守って徐々に改善していくという方向に向うように常に青少年と接触して、彼等をお互に理解し合って気長にやって行かなければならぬではないかというようなお話でした。

それから印度の方のお話ですが、印度は今人口問題で悩んでいるというお話でした。世界第三番目6億の人口をかかえて非常に問題になっているとのことですが、これに対して如何にして人口の規正をやるか。人権との関係をうまく融和させて、これを解決して行くかということ。即ち家族計画、受胎調節、人工中絶といったような、我々も終戦後非常に直面した問題でした。人権というのをよく考えて、除々に法律的に解決の途はあるとのことでした。

そういうような方々のお話でしたが、我々がきいてもわかり易しくて、実のあるデスクッションでありました。

大会の方はそんな具合でしたが、観光の方は、シドニーから飛行機で1時間のところにコアラというところがあって、ここに参りま

したら日本人の墓地がありました。

終戦のときの捕虜の墓地です。これは恰度捕虜収容所があって200人前後収容されていたそうですが、8月2日に暴動をおこして射殺されたとのことでありました。その墓を戦後日本政府で綺麗にたてて、今コアラの市でよく管理してくれました。

恰度その市長が、挨拶にくる筈でしたが都合がつかないとので助役が参り挨拶してくれて友好をたかめました。ああいうところで感じたことは、これだけ年数が経ちますと何か戦争に対して、敵味方という感を越えてお互に戦争に対する考えを失い、むしろ親善の感をもって接して行くことが出来るような感じを受けました。

その暴動がおこった原因は、日本軍が上陸してきたというデマがあったんだそうです。先程も特殊潜航艇の話があったのですが、それが捕虜に伝って刺激を与えたのではないかという話でした。

特殊潜航艇の話で過日西クラブに参りましたら、桜井先生の弟さんが、シドニーにもう少しのところでも特殊潜航艇でつつこむところだったそうです。つつこむ寸前に機械の故障で行かないでしまったとのこと。それで3隻がそこに入り2隻が爆発し、1隻だけ保存されているとのこと。

これが基地の写真です。そこからバスで2時間も平原の中を突走って大きな農場に参り農場の実態をみて参りました。

一つは牛だけの学問の農場で、1,600エーカー位の土地に牛を300頭飼っているとのこと。カーボーイのような息子さんがそんな役目をやっておりました。

そこでパーベキューの接待、家族の接待を受けて、いろいろ話をきいたり、ブーメランを投げたりして遊んできました。例のカンガルーを飼っていたり、火喰鳥を飼っていたりしておりました。

その生活として、家の中も全部見せていただき、いろいろお話をしましたが、特に裕福だという程の感じは受けませんでした。生活程度では、日本の中流よりは、却って質素なようでした。テレビもありませんでした。

次に、もう一つは羊専門のところ。これは同じ位の大きさで、羊を500~600頭飼っているとのことでした。あの辺は雨が降らない

ので畜舎はなく、全部野放しでのんきそうにやっておりました。しかし、そのうちの古い家で100年位経った家でしたが大変綺麗な家でした。ここで夕食を頂戴し、羊の肉などをいただきましたが、日本の肉に比べ余りおいしくないように感じられました。しかし非常に親切にもなしていただいて、気持ちがよかったです。この家は英国風の家でした。

その生活の様子をきいてみますと、医師は飛行機で往診にくるそうです。また重病人は飛行機で街に連れて行って入院させるということです。それから小学校などはエアーステップとでもいいますか、通信教育だそうです。それで中学校上級～高等学校になると街へ泊って学校に行くとのこと。仲々こちらでは一寸考えられないような生活を行なっているようでした。

それから会場で、秋田から行っている交換学生、それから先程お話のあった下山田さんとゆっくりお話する機会があったのですが、両方の方とも、1ヶ月位宿舎の交替があって仲々大変だとのこと。また家庭内の待遇あるいは生活程度が、日本よりも生活しづらいと云っておりました。それでも非常に元気で頑張っておられたようです。

オーストラリアは、非常に裕福なような先入感があったのですが、実際廻ってみると個人的な家庭の生活は割合に質素らしいようにしました。鼻紙がなくて困っておるなどのことなので鼻紙をやったら大変喜んでくれました。向うの連中は鼻紙がなくて、トイレトペーパーかハンケチをかむとのこと。

下山田さんは、たまたま風邪をひいており鼻の下を真赤にしておりましたが、チリ紙を上げたら大変喜んでおりました。

そのようなところをみたりきいたりしてきましたので、ご報告申し上げます。

幹事報告

会報到着

能代南RC、郡山RC、八戸RC、

八戸東RC

年次大会案内

第368区(明石)

11月6日(土) 11月7日(日)

於 明石市民会館 登録料 ¥ 5,000

申込 7月10日まで